

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施策	①正殿等の早期復元と復元過程の公開
			施策の小項目名	○復元・修復に携わる人材の確保・育成及び県産資材の利活用
主な取組	首里城赤瓦についての調査研究		対応する成果指標	沖縄県国営沖縄記念公園（首里城地区）の供用面積
施策の方向	<p>・国及び首里城復元に関係する技術者・関係機関との連携の下、復元・修復に携わる人材の確保と育成を推進するとともに、復元に必要とされる木材や赤瓦等の県産資材の調査・研究を進めるなど、県産資材の利活用に取り組みます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
首里城復元に必要とされる赤瓦等の県産資材の調査研究及び技術支援を進め、県産資材の利活用に取り組む。	県	首里城赤瓦の調査研究及び技術支援		
		支援件数(累計)		
		5件	3件(8件)	3件(11件)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	-

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	首里城復興基金事業			予算事業名	首里城復興基金事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
県単等	直接実施	3,311	14,498	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	0
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
首里城正殿瓦の試作する強度を確認するため、材料試験機を整備した。				「首里城磚瓦に関する研究」を実施するため備品を整備する。		
予算事業名	工業研究費（単独）			予算事業名	工業研究費（単独）	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
県単等	補助	3,097	3,099	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	3,336
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
首里城瓦の不良の原因となる原料中の鉄粉の除去工程を追加し、試作試験を実施した。				首里城瓦の製作における課題の解決向け支援を行う。また、「首里城磚瓦に関する研究」を実施する。		

活動指標名	支援件数（累計）		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	-件	-件	7件	5件	100.0%	順調	首里城瓦の原料となる粘土、破損瓦の確認、瓦試作の各工程の立ち会いを7回実施、助言を行った。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>支援件数5件の目標値に対して、7件の実績値となったため「順調」と判定した。取組の効果として、首里城瓦に関する研究により原料配合により瓦が試作された。また、工場の生産設備による瓦の試作により新たな課題が出たが、解決手段を提示し瓦の工程が見直された。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
—	<p>首里城瓦に関する研究により瓦の原料配合割合を決定した。研究に基づく原料配合により工場の生産設備による瓦の試作に逐一参加し、新たな課題が出た場合に、解決手段を提示し瓦の工程の見直しを図った。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	<p>現在のところ、事業は順調に進んでいるが、複数の担当者で実施していないので、人事異動があると技術の継承が難しい。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
① 執行体制の改善	<p>事業を担当する者を複数配置し、技術継承を図る組織体制にする。</p>

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア 首里城の復興	施策	④首里城に関連する伝統技術の活用と継承
		施策の小項目名	○漆芸や木工等の技術者育成
主な取組	伝統工芸技術者（漆芸・木工）の育成	対応する成果指標	工芸技術研修（漆芸・木工）累計修了者数
施策の方向	・国との連携の下、県内の漆芸や木工等の技術者を活用した首里城の復元工事を進めるとともに、復元後の維持管理・修繕にも活用されるよう技術者の育成に取り組みます。		

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
伝統技術の活用と継承を図るため、漆芸・木工の若手工芸技術者に対して技術研修を実施した。	県	工芸振興センターにおける基礎的・専門的な技術研修		
		工芸技術研修(漆芸・木工)実施回数(累計)		
		漆芸1回、木工1回	漆芸1回、木工1回(漆芸2回、木工2回)	漆芸1回、木工1回(漆芸3回、木工3回)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課	【 098-866-2337 】	関連URL	http://www.oki-kougeicenter.info

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	高度工芸技術者養成事業			予算事業名	高度工芸技術者養成事業	
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	19,776	22,537	県単等	委託	26,681
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
令和4年5月～令和5年3月までの11ヵ月間研修を実施し、漆芸3名、木工4名の計7名が修了した。				令和5年4月からの1年を通して、漆芸4名、木工4名の計8名に研修を実施する。		

活動指標名	工芸技術研修(漆芸・木工)実施回数(累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		漆芸1回	漆芸1回	漆芸1回	漆芸1回	100.0%	順調
活動指標名	工芸技術研修(漆芸・木工)実施回数(累計)		R4年度				
実績値	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	木工1回	木工1回	木工1回	木工1回	100.0%		

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>工芸振興センター移転後、初めての研修であったが、目標値を達成できたため「順調」と判定した。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
—	<p>センター移転後初めての研修となるため、研修に影響が生じないよう研修スペースや機器・物品等の不足が発生した場合は、適宜速やかに対応した。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>技術研修を実施し、漆芸3名、木工4名が修了した。研修では、首里城現場実習の機会が十分に確保できなかった。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	<p>全庁的な「首里城復元における技術継承・人材育成部会」を通して、研修生の首里城現場実習の機会増等、研修内容の充実を図る。</p>

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施策	⑤首里城を中心とした琉球文化のルネサンス
			施策の小項目名	○文化資源を活用した新たなビジネスモデルの創出等
主な取組	おきなわ工芸の杜の活用		対応する成果指標	伝統工芸・芸能を体験した個人旅行者の割合
施策の方向	・異分野・異業種間の連携する仕組みを構築し、多様性・独自性を持つ本県の文化資源を活用した新たなビジネスモデルの創出やおきなわ工芸の杜を活用した商品開発、マーケティング、ブランド力向上等を推進し、沖縄の伝統工芸の魅力や価値向上に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
おきなわ工芸の杜を活用し、消費者と作り手との交流を広げ、伝統工芸の啓発普及と消費拡大を促進するため、貸し工房、共同工房、展示室、セミナー開催等、利活用の推進を図る。	県,指定管理者	おきなわ工芸の杜における貸し工房、共同工房、展示室、セミナー等の活用		
		施設の総利用者数(累計)		
		36,000人	36,000人(72,000人)	36,000人(108,000人)
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課 【 098-866-2337 】		関連URL	-

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 おきなわ工芸の杜指定管理費				予算事業名 おきなわ工芸の杜指定管理費		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託		81,369	県単等	委託	74,873
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
4月から供用開始し、伝統工芸品の展示やHP及びSNS等での情報発信、セミナーやワークショップの実施のほか、施設入居者の事業支援等を行った。				セミナーやワークショップ等にて工房運営支援や販路開拓支援を行う。また、施設内の展示管理を行い、沖縄空手会館との連携等についても進める。		

活動指標名	施設の総利用者数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	-人	-人	33,296人	36,000人	92.5%	順調	セミナー、ワークショップを4回、異業種等との交流会を2回開催した。 また、入居者への事業支援、相談対応やイベント情報の発信、マスコミ取材対応を行い、自主事業イベントについては2回開催した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>新型コロナウイルス感染症の流行による行動制限等の影響もあったことから、「施設の総利用者数」の目標値「36,000人」に対し「33,296人」と目標値を達成できなかったが、達成割合が92.5%であることから順調と判断した。 各種イベントの実施やセミナー、ワークショップを開催することで施設の認知度を高め、来館者の集客を図ることができた。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和4年度の取組改善案	反映状況
-	<p>指定管理者の自主事業イベントの開催に合わせ、各貸し工房入居者がワークショップ実施等で連携する等、施設全体で取り組むことで集客につなげることができた。県出先機関の工芸振興センターにおいても、研修事業で連携する等、集客に向け取り組んできた。また、自主事業イベントの実施だけでなく、外部団体のイベント誘致を行うことで、施設の認知度向上や来館者の集客につながった。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	<p>近隣住民や工芸従事者でも当該施設を知らない人が多く、イベントの周知に加え、施設の取組や実施事業についても広報を強化する必要がある。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑤ 情報発信等の強化・改善	<p>SNSにおけるイベント情報の投稿をはじめとした情報発信に加え、近隣施設の空手会館や小学校等と連携を図り、広報を強化する。</p>